

平成30年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立城山東小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成30年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

平成30年4月17日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第4学年	国語	20人	算数	20人	理科	20人
------	----	-----	----	-----	----	-----

第5学年	国語	30人	算数	30人	理科	30人
------	----	-----	----	-----	----	-----

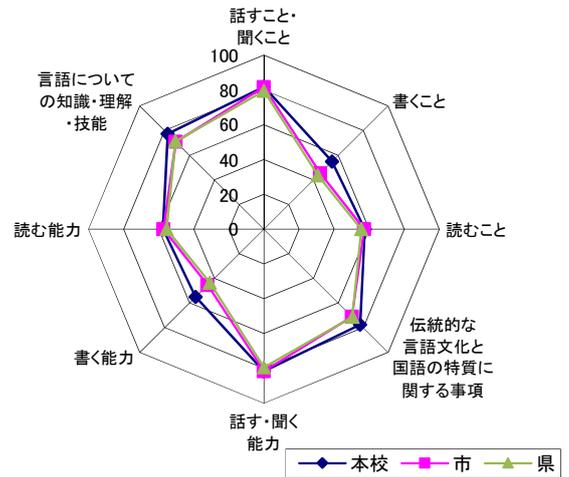
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立城山東小学校 第4学年【国語】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	81.7	81.6	79.4
	書くこと	55.0	45.4	43.6
	読むこと	57.5	57.2	55.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	77.5	71.1	71.4
観点	話す・聞く能力	81.7	81.6	79.4
	書く能力	55.0	45.4	43.6
	読む能力	57.5	57.2	55.5
	言語についての知識・理解・技能	77.5	71.1	71.4



★指導の工夫と改善

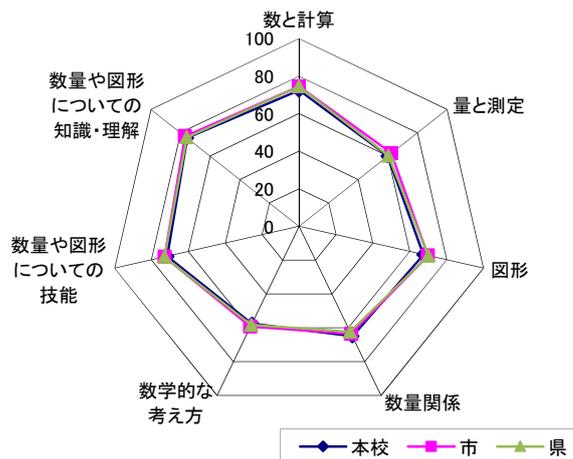
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	<p>領域の平均正答率は、県の平均とほぼ同じである。</p> <p>○グループでの話し合いの様子が書かれている文章を読んで答える設問では、いずれの設問も正答率が7割を超えており、理由を挙げて筋道を立てて話したり、賛成反対の立場を示してから意見を述べたりするなど、話し合い活動での発表の仕方について理解していることがうかがえる。</p>	<p>・各教科や学級活動等の話し合い活動を今後も取り入れ、一人一人が進んで話し合いに参加できるよう努める。</p> <p>・発言のしかたの定着を図り、話し合いがより活性化するようにする。</p> <p>・意見をまとめて整理したり、話し合いの順序を示したりするなど、司会者の役割について確認し、話し合いが自治的に進むよう指導する。</p>
書くこと	<p>領域の平均正答率は、県の平均を上回っている。</p> <p>○【メモ】を基にした【報告レポート】の書き方の工夫について答える設問では、8割以上が内容のまとまりごとに見出しを付けてまとめられた形式の特徴に気付いていた。</p> <p>●【メモ】や友達の意見を基に【報告レポート】に内容を書き加える設問のように、指定された形に書き換えることができていない児童が多かった。</p>	<p>・書くことと並行して、【メモ】や【レポート】など、いろいろな形式の文章を読み取る機会を設け、力をつけていく。</p> <p>・文章を要約したり、形式を変えてまとめたりするなどの活動を他教科でも意図的に取り入れ、書く力やまとめる力の育成につなげる。</p>
読むこと	<p>領域の平均正答率は、県の平均とほぼ同じである。</p> <p>○説明文における文章の細かい点注意しながら読み、まとめる設問では、7割が、条件を踏まえて文章をまとめることができ、県の平均を上回った。</p> <p>○物語文における人物の気持ちを想像する設問では、叙述を基に登場人物の気持ちを深く読み取り、県の平均を上回った。</p> <p>●説明文においては、文全体の内容を理解し、離れた文にも着目して要点をまとめることに課題がある。</p>	<p>・国語の授業や朝の学習、家庭学習の課題等で、大事な言葉や文に線を引いたり、自分の言葉でわかりやすく言い換えてまとめたりするなど、読み方のポイントを踏まえて読むよう指導する。</p> <p>・読書の時間にはいろいろな分野の本に親しむよう声を掛け、読み取りの力の育成につなげる。</p>
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	<p>領域の平均正答率は、県の平均を上回っている。</p> <p>○第2・3学年配当漢字の読み書きについては、どれも県の平均値以上の正答率であった。</p> <p>○国語辞典の使い方については、正答率が8割を超えており、県の平均を上回っている。</p> <p>●ひらがながローマ字に直されているものを選ぶ設問の正答率は3割程度であり、第3学年で学習したローマ字の定着に課題があると見える。</p>	<p>・既習漢字の確実な定着を図るために、朝の学習や家庭学習の課題等で、前の学年で習った漢字の復習をする機会を設ける。また、日常の中で既習漢字は必ず使うように指導していく。</p> <p>・漢字ミニテストを実施し、習熟を図る。</p> <p>・「宮っ子学習ステップアップシート」を活用し、漢字や言葉の定着を図る。</p> <p>・ローマ字については、復習の機会を設けるとともに、他教科や総合的な学習の時間でパソコンを使った学習を取り入れるなどして、くり返し読んだり書いたりする機会を増やしていく。</p>

宇都宮市立城山東小学校 第4学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	72.5	74.5	74.6
	量と測定	60.0	62.4	60.4
	図形	67.5	69.9	70.1
	数量関係	65.0	63.6	62.3
観点	数学的な考え方	57.5	59.2	58.3
	数量や図形についての技能	71.5	72.9	73.0
	数量や図形についての知識・理解	75.7	77.1	76.0



★指導の工夫と改善

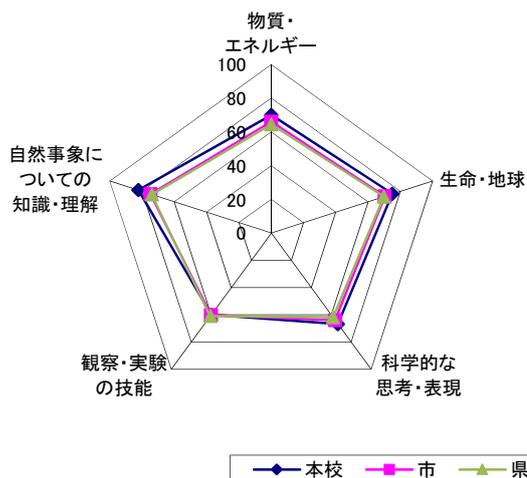
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>領域の平均正答率は、県の平均とほぼ同じである。</p> <p>○テープ図で4分の1を示す図を選ぶ問題の正答率が、95%と高かった。</p> <p>○3位数×2位数の計算は正答率が8割であった。</p> <p>●かけ算の仕組みを考える式やわり算の余りの確かめの式で正答率が6割、5割と低くなっており、課題がある。</p>	<p>・今後も文章題を解くにあたっては、テープ図や線分図など用いて考え、問題の意味を視覚的にも表せるようにする。</p> <p>・かけ算・わり算については、どのような場面で用いるのかを考えさせ、立式するまでに時間をとり、説明できるようにさせる。</p> <p>・かけ算、わり算については、ドリルを用いて正確に計算できるように繰り返し練習する時間を設け、その際、余りの確かめの式についても触れ、なぜそのような式になるのかよく考え、確認する時間をとる。</p>
量と測定	<p>領域の平均正答率は、県の平均とほぼ同じであるが、他の領域より低い。</p> <p>○秤の目盛りを読み、かごの重さを引いてミカンの重さを答える問題は、県の平均を10%ほど上回っている。</p> <p>●ドッジボール1個の大体の重さを問う問題に対して31gと答えた児童が4割いた。</p>	<p>・長さや秤の目盛りの読み方については、これからも実物をはかる活動を通じ、練習して定着させる。</p> <p>・重さの量感については、1kgの量感はある程度あるが、10gと100gについてははっきりとした量感の差がない。持ってみて重さを想像し、実際に秤に乗せて重さを計って確認する作業を繰り返し、量感を育てていきたい。</p>
図形	<p>領域の平均正答率は、県の平均とほぼ同じである。</p> <p>○1辺が4cmの正三角形の製図については正答率が8割と高かった。</p> <p>●箱に入れたボールの半径を問う問題で、直径を解答した児童が35%いた。</p>	<p>・正三角形が正確に書けたということは、コンパスの使い方が上手になり、ずれずれに使えるようになったこと、一度書いたものに定規を当てて確認できるようになっていると言える。</p> <p>・直径と半径については他の問題でもミスがみられることから、半径、直径を問う問題を比較させ、違いを確認させる。また同様の練習問題を解く中で、正確に解く力を身に付けさせる。</p>
数量関係	<p>領域の平均正答率は、65.0%で、県の平均とほぼ同じである。</p> <p>○等分除の場面を線分図に表し、その中から正しい図を選ぶ問題では正答率が100%であった。</p> <p>●等分除の線分図から除法の式を立て答えを求める問題は、正しい線分図を全員が選べたにもかかわらず、正答率は6割だった。</p>	<p>・問題の場面を正しく線分図に表したものを選べたので、問題場面の読み取りはできていると思われる。</p> <p>・正しく立式できているにもかかわらず、正答できない児童が4割いたことから、わり算の計算の定着が図れるよう、時々復習するために練習時間を設けていく。</p> <p>・グラフの目盛りと棒の高さの関係について、指導する。</p>

宇都宮市立城山東小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	70.0	66.1	64.4
	生命・地球	75.0	70.4	69.8
観点	科学的な思考・表現	66.8	64.1	61.9
	観察・実験の技能	60.0	60.2	61.0
	自然事象についての知識・理解	82.3	74.8	74.0



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	<p>領域の平均正答率は、県の平均を上回っている。</p> <p>○光の性質、磁石の性質、電気の通り道については、いずれの設問においても県の平均を上回っており、よく理解できているといえる。特に、磁石の性質、電気の通り道については平均を大きく上回っており、興味・関心の高さがうかがえる。</p> <p>●ゴムの力を利用したプロペラカーの設問では、「ゴムをねじる回数が多いものほど、ものを動かす力が大きい」ということはおおむね理解しているが、それをもとに、動かしたい距離に応じて、ゴムをねじる回数を調整するという設問の正答率は6割以下であった。理解したことを活用することに課題があるといえる。</p>	<p>・よくできている内容については、学習した内容を日常生活と関連付けることで、自ら課題を見つけ、主体的に問題解決していく力を伸ばしていけるようにする。</p> <p>・風やゴムの力の働きの学習では、風を受けたときやゴムの力を動かさせたときの手ごたえなどの体感を重視した活動を多く行う。風の強さやゴムの伸びなどと物の動きとの関係を表にまとめたり、活動の目的によって風やゴムの力を調整したりすることで、実感を伴った理解につなげていけるようにする。</p>
生命・地球	<p>領域の平均正答率は、県の平均を上回っている。</p> <p>○昆虫と植物、身近な自然の観察については、ほとんどの設問で県の平均を上回っており、よく理解しているといえる。日頃から、身近な自然に親しんでいることが、結果につながっていると思われる。</p> <p>●虫眼鏡の適切な使い方についての設問では、正答率が3割で、適切な使い方が身に付いていないことが分かる。</p> <p>○●太陽と地面の様子については、どの設問においても県の平均を上回っているが、時間によるかげの変化の仕方についての設問では、正答率が5割に達しておらず、課題があるといえる。時間ごとの太陽の動きと影の動きとの関連付けができていないことによる誤答が目立つ。</p>	<p>・昆虫や植物、身近な自然への興味・関心がさらに高まっていくよう、昆虫を飼育したり植物を栽培したりする活動を継続して行っていく。</p> <p>・用具名と使用方法については、資料を教室に掲示したり繰り返し使用したりして、知識と技能の習得を図る。</p> <p>・太陽と地面の様子についての学習では、時間ごとの太陽やかげ、地面の様子の変化を調べる活動を丁寧に行い、実感を伴った理解ができるようにする。</p>

宇都宮市立城山東小学校 第4学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○ 学びの基礎力についての質問では、学習動機に関する各設問における肯定的な回答がかなり高い傾向である。「自分には、よいところがあると思う」という設問や「ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがある」という設問では、肯定的に捉えている児童が多いことから、自己肯定感や自己有用感が育ってきていると考えられる。さらに、学習計画力の質問では、「時間を上手に使うこと」を心掛けている児童の割合が高い。

○ 社会的実践力についての質問では、肯定的な回答が多かった。「人と話すことは楽しい」という設問に肯定的な回答をした児童が100%だった。また、自分のよさを人のために生かしたいと思うや「誰に対しても思いやりの心をもって接している」という設問も肯定的な回答をした児童が約9割いた。

○ 学級での様子では、「友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができている」と回答した児童の割合が100%だった。また、「授業では、クラスの友達との間で話し合う活動をよく行っている」や「授業で分からないことがあると、先生に聞くことができる」や「グループなどでの話し合いに進んで参加している」という設問に対して、肯定的に回答した児童が高いことから、普段から学び合い活動を取り入れ、児童は活発に意見を発表し合っていることが分かる。

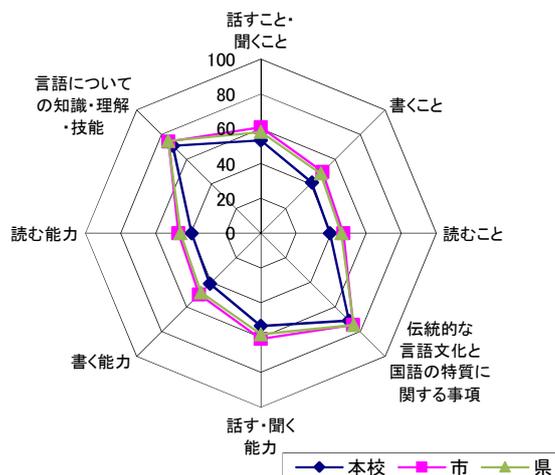
○ 家庭での学習に関する質問では、「家で自分で計画を立てて勉強をしている」や、「家で、学校や塾の決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」という設問に対して肯定的に回答した割合が高い。また平日の学習時間については、約9割の児童が30分以上と回答しており、家庭学習の習慣が身に付いているといえる。

● 「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことは難しい」の質問では、自分の考えを文章にまとめることに抵抗を感じている児童が多いことが分かった。今後も引き続き授業の中で自分の考えを書く場面を意図的に設定したり、書き方のモデルを示しながら継続的に指導していく。

宇都宮市立城山東小学校 第5学年【国語】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	53.3	60.8	58.1
	書くこと	41.1	49.8	48.3
	読むこと	39.4	47.0	45.9
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	71.0	74.4	74.8
観点	話す・聞く能力	53.3	60.8	58.1
	書く能力	41.1	49.8	48.3
	読む能力	39.4	47.0	45.9
	言語についての知識・理解・技能	71.0	74.4	74.8



★指導の工夫と改善

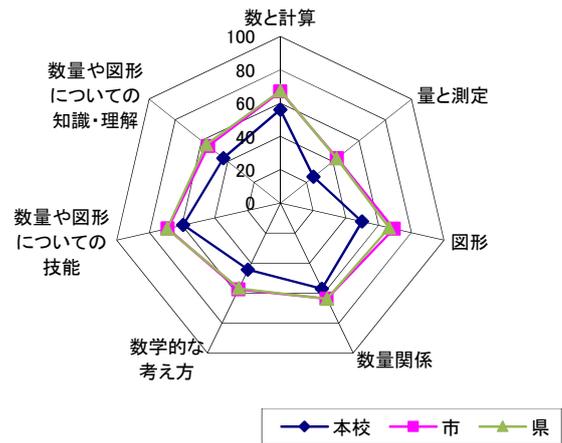
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	<p>領域の平均正答率は、県の平均を下回っている。</p> <p>●学級会での話し合いの様子が書かれている文章を読んで答える設問の中の、意見の共通点を考えたり、司会者の役割を理解したりする問題では、正答率が5割に達しておらず、内容の要旨を捉えて読み取ることに課題があるといえる。</p>	<p>○各教科や学級活動等の話し合い活動で、基本的な意見の述べ方について、教室内の掲示資料を用いながら指導する。</p> <p>●意見をまとめて整理したり、話し合いの順序を示したりする等、司会者の役割についても確認する。</p> <p>○「話すこと・聞くこと」と並行して、文章を読み取る力も付けていく。</p>
書くこと	<p>領域の平均正答率は、県の平均を下回っている。</p> <p>●虫歯予防の掲示物を読んで答える設問の中の、表を基に説明したり、インタビューの結果を基に必要な内容を整理して書いたりする問題では、正答率が3割に達しておらず、資料の内容を読み取ったり、資料を活用して条件に合わせて書いたりすることができていない児童が多い。</p>	<p>○複数の条件に合わせて書く機会を増やす。</p> <p>●書くことと並行して、様々な形式の文章を読み取る力を付けていく必要がある。国語の時間だけでなく、朝の学習や家庭学習等で、短い文章を要約する活動を取り入れ、書く力の育成につなげていく。</p>
読むこと	<p>領域の平均正答率は、県の平均を下回っている。</p> <p>○県の平均をわずかに下回っているが、8割の児童が、登場人物の気持ちを想像して読むことができた。</p> <p>●物語文・説明文のいずれも、細かい点に注意しながら読み、中心となる語や文を捉えたり、特徴的な描写を捉えたりして、大筋を読み取ることが課題である。</p>	<p>○国語の時間だけでなく、朝の学習や家庭学習等で、大事な言葉や文に線を引いたり、内容を分かりやすくまとめたりする等、読み方のポイントを踏まえて読む指導をする。</p> <p>●読書の時間には、いろいろな分野の本に親しむよう促し、読み取りの力の育成につなげる。</p>
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	<p>領域の平均正答率は、県の平均とほぼ同じである。</p> <p>○漢字とローマ字の読み方は、県の平均を上回っていて、8割の児童が読むことができた。特に、「約束」と「胃腸」の漢字は、全員が読むことができた。</p> <p>●漢字の書きや部首、漢字辞典の使い方、慣用句の使い方は、正答率が3割から6割で、課題が見られる。</p>	<p>○既習漢字の確実な定着を図るために、朝の学習や家庭学習等で、前の学年で習った漢字の復習をする機会を設けたり、日常の中で、既習漢字は必ず使うように指導したりして、意図的に漢字を使う機会を増やしていく。</p> <p>●漢字ミニテストを実施したり、「宮っ子学習ステップアップシート」を活用したりして、言葉や漢字の習熟を図る。</p>

宇都宮市立城山東小学校 第5学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	56.1	66.9	67.4
	量と測定	25.3	43.2	43.0
	図形	50.0	69.4	66.5
	数量関係	57.1	63.7	63.9
観点	数学的な考え方	44.4	57.5	56.8
	数量や図形についての技能	59.3	68.8	69.3
	数量や図形についての知識・理解	43.3	54.9	56.4



★指導の工夫と改善

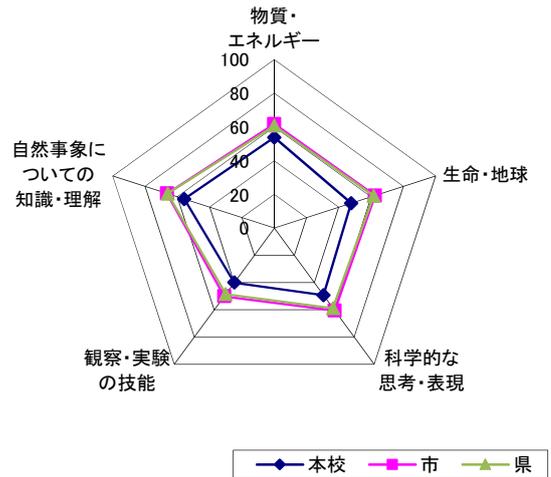
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>領域の平均正答率は、県の平均を下回っている。</p> <p>○小数の減法の結果としてふさわしい数値を選ぶ問題では、正答率が7割を超え、県の平均よりも高い結果となった。</p> <p>●3位数÷2位数=2位数(余りあり)の問題の正答率は5割と低くなっており課題があると考えられる。</p> <p>●小数と整数の中から1番大きい数を選ぶ問題の正答率は4割となり課題が見られた。</p>	<p>・小数や分数の大きさについては数直線や線分図を用いながら視覚的に理解できるようにしていく。</p> <p>・小数や整数は、10集まると次の位に繰り上がるという10進法をしっかりと理解させる。</p> <p>・かけ算やわり算は、ドリルやプリントを用いて繰り返しの学習をし計算の技能を向上させていきたい。また、わり算については、商の立て方や余りの出し方について確認する時間をとっていく。</p>
量と測定	<p>領域の平均正答率は、県の平均を下回っている。</p> <p>●1mの正方形の辺に1cmの正方形が何枚並ぶか、1平方メートルの正方形は1平方センチメートルの正方形何枚文かを求める問題では、それぞれ正答率が3割、2割程度と低く課題が見られる。</p> <p>●図をもとに180°より大きい角度の求め方を説明する問題では正答率が3割程度であった。</p>	<p>・1mは100cm、1cmは10mmなど長さの単位について確認をする。身近にある定規や、巻き尺など実物を使いながら正確な量感を養っていきたい。メートルやセンチメートルから平方メートル、平方センチメートルなどの面積についても教室の床のマス目や、黒板の大きさなどを使ってどのくらいの大きさなのかを体感させながら、内容をつかませたい。</p> <p>・角度については、90°や180°の大きさを確認し、その大きさを基準として、そこからどのくらい大きい小さいかを考えさせたい。</p>
図形	<p>領域の平均正答率は、県の平均を下回っている。</p> <p>○平面上にあるものの位置を表す問題では正答率が7割とよく理解していることが分かる。</p> <p>●平行四辺形の作図については、正答率が3割に満たない結果である。</p>	<p>・作図については、図形の性質を理解して書く必要がある。平行四辺形であれば、向かい合う2つの辺は平行であるという性質を理解し作図を行う。また、作図をする際の手順やコンパスの使い方を確認するような復習の時間も確保していく。</p>
数量関係	<p>領域の平均正答率は、県の平均を下回っている。</p> <p>○図や表から変わり方を考え、表に当てはまる数を求める問題では、正答率が9割と高くなっている。伴って変わる2つの量の規則性が理解できている結果となった。</p> <p>●二次元表の欄に当てはまる数字を入れる問題では、正答率が6割程度であった。</p> <p>●問題文から1つの式を立式しておつりを求める問題では正答率が3割と低い。</p>	<p>・図や表の数値から伴って変わる2つの量についての規則性を考える活動を行っていく。また、折れ線グラフは2つの数量の変化を見る時に使用するなど、それぞれのグラフや表の特徴を理解させたい。</p> <p>・文章問題については、立式までの時間を取り、なぜそのような式になったかを説明する活動を取り入れていくことで、内容の理解を深めたい。</p>

宇都宮市立城山東小学校 第5学年【理科】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	53.8	61.7	60.7
	生命・地球	47.6	62.4	61.6
観点	科学的な思考・表現	49.3	60.6	58.9
	観察・実験の技能	40.0	50.1	48.6
	自然事象についての知識・理解	55.7	66.3	66.0



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	<p>領域の平均正答率は、県の平均を下回っている。</p> <p>○●閉じ込められた空気は圧されれば圧されるほど、押し返す力が大きくなるということについての正答率は県の平均を上回ったが、同じシリンダーに閉じ込められた空気と水を押し縮めると空気だけが縮み、水は縮まないということについての正答率は県の平均を下回った。</p> <p>○金属の球を温めると膨張することについては正答率が県の平均を上回った。</p> <p>○●水を温めると体積が増えることについて水位が上昇する現象を理解している児童が多く、正答率が県の平均を上回ったが、空気と水の温度による体積変化の割合は空気の方が大きいということについて正答率は県の平均を下回った。</p> <p>○●盛んに泡を出しながら沸き立つことを「沸騰」ということについて正答率が県の平均を上回ったが、沸騰の時に出てくる泡が「水蒸気」であることについては県の正答率の平均を下回った。</p> <p>○●光を多く充てることが光電池の力を引き出すには必要であるという問題では正答率の平均が県を上回ったが乾電池のつなぎ方や用途による回路の使い分けについては県の平均を下回っている。</p>	<p>・空気は押し縮めることができるが、水は押し縮めることができないことについて忘れていく傾向がある。注射器を使用して簡単に確認できることなので再実験をして知識の再定着を図っていく。</p> <p>・金属膨張実験器具を適切に使用して、温められた金属球が金属の輪を通らなくなる実験を通して「体積が増えた」ことを実感として理解することができたと考えられる。</p> <p>・空気と水の温度による体積変化に関しては再実験やデジタル教科書等で確認し、知識の定着を図る。</p> <p>・水蒸気は見えないが、沸騰した水の中では見ることができるという認識を再度確認し、知識の定着を図る。</p> <p>・教室内に方位を示す表示をしたり、教室に常に方位磁針を置いておき、人の向きが変わっても磁針の向きが一定であることなどについて体験的に理解できる環境を整えておくことが必要と思われる。</p>
生命・地球	<p>領域の平均正答率は、県の平均を下回っている。</p> <p>●人の体の作りについては、「関節」の意味や「筋肉」の働きについての正答率が県の正答率の平均を下回った。</p> <p>●季節と生物については、昆虫や両生類、植物の季節ごとの活動を覚えている児童が少なかった。</p> <p>●天気の様子では、気温の変化と天候の変化の関係性を述べたり、結露の現象について説明したりすることが上手くできなかった。</p> <p>●月と星についてはそれぞれの動きの観測方法について覚えている児童が少なかった。</p> <p>○●方位磁針の名称を答える問題では正答率が県の平均を上回ったが、方位磁針の使い方については、県の平均を下回っている。</p>	<p>・人の体の作りに関しては、実物大の骨格模型や筋肉と関節の模型などを活用し、筋肉の動きと関節の役割の関係を視覚的、体験的に捉えることで知識の定着が図れるようにしていく。</p> <p>・季節ごとの生物の生活の様子や気温の変化と天気の移り変わりについては、デジタル教材等を利用して視覚的に復習し再度覚えることができるようにする。</p> <p>・方位磁針に関しては、知識だけが優先されて技能が伴われていないことが課題である。児童自身に方位の概念が定着していないことや日常的に方位磁針を使用していないことが正答率を下げた原因と考えられる。</p>

宇都宮市立城山東小学校 第5学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○学びの基礎力についての質問では、「学校での役割や係の仕事に責任をもって取り組んでいる」の質問に対して100%の児童が肯定的な回答をしている。また、「自分がクラスの人の役に立っていると思う」の質問に対して肯定的な回答をしている児童が多く、自分のことに責任をもって取り組み、充実感を味わって生活できている児童が多いといえる。

○家庭学習力については、「家で学校の授業の予習をしている」「家で学校の授業の復習をしている」「家で勉強するとき、だいたい同じ時刻に取り組むようにしている」と答えている児童が多く、県の平均を上回っている。このことから、家庭での学習習慣が徐々に定着してきているといえる。

○学校での様子では、授業において「クラスの友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」の項目において、約8割の児童が肯定的な回答をしており、友達との学び合いの学習を通して児童の学びが深まっていることが分かる。さらに、「友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができる」や「授業で分からないことがあると先生に分からないことを聞くことができる」においても肯定的に回答した児童が多く、児童は聞く姿勢が身に付いており学習に前向きに取り組んでいることが分かる。

○「先生は学習のことについてほめてくれる」の項目では、約9割が肯定的な回答をしている。引き続き、よさや努力をほめ、学習意欲を高めていく。

○教科についての質問では「理科の学習は好きですか」や「理科の学習の授業の内容はよく分かりますか」の項目において約9割の児童が肯定的な回答をしている。児童の意欲を大切に、他教科にもつなげられるよう今後も授業の工夫・改善をしていく。

●家庭学習についての質問では、平日は約6割の児童が1時間以上学習していると回答している。ほとんどの児童が30分以上は学習しており、家庭学習の習慣は身に付いてきているといえる。課題の工夫や家庭学習の仕方の紹介などを今後も継続して行っていきたい。

●教科についての質問では、「算数の学習は好きですか」という項目において約5割の児童が肯定的な回答をしており、「算数の授業の内容がよく分かりますか」という項目の回答に関しては県や市の平均を下回っている。学習形態や教材などを工夫して授業の改善を図りたい。

●教科についての質問では、「社会で分からない国名や地名があったら、インターネットや地図帳などを使って調べている」や「漢字の読みや言葉の意味が分からないときは、辞書を使って調べている」の項目においては否定的な回答が多かった。授業で地図帳や辞典、インターネットを利用するなどし、わからないものは自分で調べて解決できるような活動を取り入れていく必要がある。

宇都宮市立城山東小学校（第4・5学年共通） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
読書活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> 各学年20冊の必読書設定及び読書記録カードの活用 家読の推奨 読み聞かせボランティア等による読み聞かせの実施 「おすすめの本書紹介コーナー」による児童間の感想の交流 学級担任と学校図書館司書との連携による、本を介した学び合いの授業の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 学校の授業時間以外の読書の時間や1か月に読む本の冊数は、県の割合を上回っており、日頃から本に親しんでいることが分かる。 国語の「書くこと」や「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」では、低学年から本に親しみ、本を介しての感想の交流や学び合いを積極的に行ってきた積み重ねの成果が見られる。
「読むこと」「書くこと」における基礎的技能を高める学習の充実	<ul style="list-style-type: none"> 朝の学習における「ミニ作文」や語彙力を付けるための学習の実施 低学年の促音、長音、拗音などの指導段階における個に応じた教材の活用 授業の振り返りの確実な実施と次時での活用 	<ul style="list-style-type: none"> 4年生では、国語の「書くこと」の平均正答率が、県の平均を大きく上回っている。また、5年生でも、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」では、重点的な取り組みの成果が見られる。
復習により定着を図る学習の充実	<ul style="list-style-type: none"> 前学年までの「宮っ子学習ステップアップシート(漢字・言葉・計算・図形・量)」の計画的な実施 	<ul style="list-style-type: none"> 国語の「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」について見ると、4年生はローマ字の定着に課題があるものの、おおむね前学年までの学習事項が身に付いているといえる。5年生は、漢字の読みはよく身に付いているが、漢字の書きや部首、漢字辞典の使い方、慣用句の使い方には課題が見られる。

<p>家庭学習の習慣化に向けた指導の工夫</p>	<p>・「家庭学習の手引き」の活用(児童・保護者) ・地域学校園共通の合言葉「宿題プラス1」の周知・徹底 ・年2回の「家庭学習がんばり週間」の実施と自主学習の実践の紹介</p>	<p>・平日の家庭学習の時間については、4年生は「30分以上1時間より少ない」、5年生は「1時間以上、2時間より少ない」が最も多い。5年生ともに、ほとんどの児童が30分以上の学習をしており、家庭学習の習慣が身に付いてきているといえる。 ・4年生では、「学習に対して、自分から進んで取り組んでいる」「自分で計画を立てて勉強をしている」の設問に対して、ほとんどの児童が肯定的回答をしている。</p>
--------------------------	--	--

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
<p>国語では、説明文における中心となる語や文を捉えて読むことが、4、5年生共通の課題である。</p>	<p>・読み取りの力を付けるための、朝の学習等における新聞記事の要約</p>	<p>・児童向けの新聞を活用し、大事な言葉や文に線を引いたり、自分の言葉で分かりやすく言い換えてまとめたりするなど、短い文章を要約する活動を多く行う。</p>
<p>算数では、長さや面積、かさ、重さなど、量の大きさについての感覚を身に付けることが、4、5年生共通の課題である。 理科においても、実感を伴った知識を身に付けていくことが課題である。</p>	<p>・実感を伴った知識を身に付けるための、作業的・体験的活動の充実</p>	<p>・低学年の段階から、様々な物や事象について、実際に大きさを調べたり確かめたりする作業的・体験的活動を、時間をかけて丁寧に行う。また、授業だけでなく、日常生活の中でも身近な物を測ったり身近な事象に目を向けたりする機会を意図的に設ける。</p>